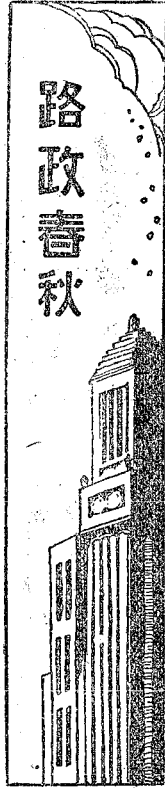


路政春秋



注意

本欄は讀者諸君の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯部に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

青年者の奉仕と 道路の補修工事

昨年夏の事である、臺灣臺北州新莊郡では昭和十五年度夏季勤勞報國運動とし、郡下青年團員延べ人員十萬二千六百七十一人を動員し、豫て燒けつくやうな炎天下に暑い汗を流し、道路の補修工事に勤勞奉仕し見事な成績を挙げたといはる、元來同郡下の道路は、州下に冠絶する立派な道路と折紙をつけられたものだけあつて、赤土の道路は流行にアスファルト舗装にまさるとも劣らない程立派なものである、勿論雨季になると泥濘と化するので、郡當局に於ては郡下すべての道路に簡易なベラス舗装を行

ふべく計畫を進めてゐる。林口庄の勤勞奉仕作業は菁埔公學校區域の青年團が中心となり、殘暑さびしい炎天下を毎日男子五百八十四名、女子四百二名、計千六名もの團員が動員され、初秋の風にはためく一億一心勤行報國と墨痕鮮かに書かれた大幅の下、逞しい勢力奉仕作業が全庄下の道路に繰廣げられてゐたこともあと一、二日で作業を完成した、男子青年團は團服に身をかため、織をふり上げ、ふり下ろし土を掘返し、道路のごぼごこに土盛りを行ひ、女子青年團員も揃ひの眞白なブラウス、紺のスカート、の團服をまとひ、完成した道路兩側に芝生をはりつけ、黙々と作業にいそしんだ、又五股庄は毎日、學校、青年團男子百

六十名、女子百名、部落振興會、青年團員子百七十六名、女子二百三十名、合計六百六十名が出動し作業に従事した、郡當局の該運動の指導方針を開く。

「勤行報國運動は國民精神動員の國策に從ひ、勤行に依り國民精神の振作並に銃後奉公の誠を擧げ得る様に指導してゐるが、郡民一致、その心構へで勤行奉仕にかかつてゐるので、仕事は見る／＼裡に運ばれてゐる、そして一に感謝、二に眞劍、三に協同の三つを勤行奉仕のモットーとしてゐる。この若人の流汗努力奉仕に依り、完成された道路は實に二十五路線、延長六十キロに達してゐる。」

國際的にも敬虔と

反省

松岡外相は第七十六帝國議會に於て外交演説をした、其中に米國の態度を遺憾とし、卒直に申せば私は日米國交のために太平洋平和のために、かゝる米國の態度を頗る遺憾とする者である、大國民たる米國民は須らくその世界平和に對して負ふところの責任に目覺め、眞に神を畏れる敬虔の念をもつて深く反省し、行懸りの如きは大幅して之を一掃し、現代文明の危機を打開するため其の力を用んことを希望して止まない云々」と述べておる、眞に然り、萬國萬民眞に神を畏るるの敬虔の志豊かなるに於ては、世界の和平はたちどりに招來し得べし。此信念あるに於ては闇亦引は絶滅し得べくと信ずる、善哉。

明石鳴門の隱道は？

明石チヨイと出りや鐘子ヶ嶺、向ふに見

ゆるが淡路島と歌の中なる淡路島も近き將來險ついきとなつて「技術日本」の聲名を博することも單なる理想に止まる事はあるまい、そこで明石から徳島へ約百五十キロ

の鐵路が完成すると、船でなくては通へぬ四國と阪神間の交通は實に便利となり、淡路津名郡は住宅地に行きづまる阪神の勤勞者にとつては恰好の地で、大阪へは僅々五十五分、神戸には三十分で通勤ができ、これに明石、加古川、姫路、廣とつゞく播州地方の工業都市にも交通網が開けるうへ、淡路三原平野も工業地として理想的であり、「おのこる島」の淡路も近代文化の洗禮をうけて飛躍を期せられ、四國四縣産業の進展は驚くべきこととなるであらう、速斷行を望む。

交通道德の缺如を如何にすべきか

故桐島像一氏等に依つて交通道德の發展普及が唱道せられたることも二々昔のとき

であるが、爾來どうなつたか歳と共に愈々益々交通界に於ての道德無視が甚だしくなつた感がする、信號を無視して疾驅する自轉車、自動車は勿論、徒歩者でも交通巡査の居らないを見ると其の夥しき見るのは、一列順に并注意するも馬耳東風、電車や汽車に朝夕われゝの目に觸るる所である。

街頭に出ると忽ち憂鬱に陥らしめらるゝのである、此交通道德の缺如は大政翼賛上大に憂へざるを得ない、尾崎秀實氏は論じて曰く「交通機關にかぎらず總べて公共的施設の利用に際する徳義心とかく日本人が缺けてゐるとする理由は、長い間の相當に進んだ封建的家族中心の道義が基礎を失つて以來、日本の資本主義的發達が急激であつたために物的條件において進んだに對して精神的條件においておくれたためであつたといふ説明が普通に行はれてゐるところである。

總べて缺乏は徳性を麻痺せしめる。經濟犯罪に現れた非道德性にして、交通道德の

破綻にしる、要するに供給に對する需要の増大が不均衡に現れたところに起因してゐる。インフレーションの暗い面であることはいふまでもないのである。

新體制の完成への前進のために是非とも克服しなくてはならないのはこのやうな道徳性の缺如である。社會全員の緊密な協力と自己犠牲とが無くては強力なる社會的盡力を結集し得る新體制は成り立ち得ないのである。

今の日本の經濟的條件では缺乏の方を克服することは出来ないこと明らかである。だから缺乏に甘んずる徳性を養ふことが必要であらう。そのためには犠牲を均衡化することがはからねばならないであらう。生命を投げうつて戰場に戦ふ人々のある時、ぬくぬくと懐手をしながら戦時利得にふくれ上る人々の存在は許されてはならないのである。——賛同に吝かならず矣。

祕佛開扉の國寶級の聖像

岡山縣の山峽備中成羽栖龍山龍泉寺へ昭和二年に入山した現住職竹内明照師は寺の住職が本尊の姿を拜されぬと言ふ譯はないと昭和十二年高野山管長親下を迎へて結縁灌頂を受けた同寺の信者の人々をも集めて始めて靈物の扉を開いて見たところ檜材の一本成等身本尊大佛は國寶級との推定は出來得ても權威者に鑑定さすまでに至らぬ裡に師は陸軍少尉として今事變に應召、凡そ二ヶ年を中南支方面に従軍このほど歸還して吉村四方海氏の鑑定を受けたところこの聖觀世菩薩立像は身長六尺三寸五分の全體豐滿で靜的表现に富み、顔面の表情森嚴で幽晦、衣紋に飄波式刀法があり、奈良を中心とする近畿地方において弘仁期の佛像は美術的價値は當時中央で第一流とされてゐたこと判り竹内師は目下國寶指定の手續中である。

この龍泉寺は眞言宗仁和寺末で凡そ一千二百年前の人皇四十五代聖武天皇御宇行基菩薩が開基され、その後六百年間の古記は度々の火災で焼失したので判らず、後醍醐帝の元弘三年、光嚴帝の正慶二癸酉年に權僧正隆澄房果任師の入山を中興第一世として現住職竹内明照師が三十三代、六百年の古い歴史を持つてゐる。

雜吟

婦美

春寒や徒らにわれ老ひけらし
光る風祕佛のいわれ僧に聞く
寺門荒れ疎林の庭や月おぼる
會堂の塔の尖りや陽炎へる
春寒や妻の遺愛の鏡見る
母戀ふて歸る娘工女や春寒を
旅愁秘めて越ゆる峠や春の雲